

LS24

受験番号

2011 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 刑法・刑事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は刑法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 刑法

【第一問】

Xは、資産家であるAの家に忍び込み、金品を盗む計画を立てた。しかし、ひとりでは実行する勇気がなかったため、遊び仲間のYに事情を話したところ、Yは別の事件で執行猶予中であるとの理由で協力するのを断った。しかし、Xは、Yは家の外で見張りをするだけでよいこと、また、分け前は折半することなどを申し出たところ、Yはしぶしぶ協力することを承諾した。

犯行当日、Xは車を持っていなかったため、Yが自分の車を運転し、Aの家のそばまで行ってXを降ろし、車中で待機しながら、事前にXからA宅の家人や警察官等が現れた場合Xの携帯電話へ連絡するよう指示されていたので、周りの様子に気を配っていた。

他方、車から降りたXは、A宅の風呂場の窓を壊し、家の中に入って、居間に行って、戸棚やテーブルに置いてあったカバンなどを開けて現金や時計、貴金属などがいないかを調べていた。

ちょうどその時、2階に寝ていたAが、階下の物音に気づき目を覚ました。Yは、2階の電灯がついたので、家人に気づかれたと思い、慌てて携帯電話でXに連絡した。Xは、Yからの連絡で家人に気づかれたことを知り、玄関から脱出しようとしたが、2階から降りてきたAと鉢合わせになり、AがXを取り押さえようとしたので、XはAを突き飛ばして玄関から脱出し、外で待機していたYの車で逃走した。Xに突き飛ばされたAは、右手を骨折した。なお、Xは結局何も盗ることはできなかった。

【第二問】

Aは、Bを困らせてやろうと思い、Bのカバンから万年筆を取り出して、公園のごみ箱に捨てた。Aに窃盗罪は成立するか。

以上

専門論文試験 刑事訴訟法

次の項目、用語ないし原理などについて、簡潔に説明せよ（なお、判例を前提にする）。

- (1) 職務質問のための有形力行使の適法性の要件について
- (2) おとり捜査の限界について
- (3) 逮捕勾留されている被疑者取調べの適法性の要件について
- (4) 被疑者勾留の要件について
- (5) 違法収集証拠排除法則について
- (6) 伝聞禁止原則の理由について
- (7) 捜査機関作成の一般的な実況見分調書が不同意となった場合の証拠能力について
- (8) 自白の補強法則について
- (9) 控訴審の役割について
- (10) 一事不再理効の及ぶ範囲について